アメリカの幼稚園に愛兒を通はせて

アメリカの幼稚園のありさま——「親と先生の會」のことなど

遠藤惠子

アメリカの兒童教育と云ふ問題で何か書くやうにとのことでありますが、私が滯米當時此の問題に對し特別に關心を持つてゐたわけでもなく、又專門的に調べてゐたわけでないので、之を整然と纏め上げる資格はないのです。唯一個の日本人の母親として、滿一年半の長男を同伴渡米、爾來子供が滿三歳位で教會に通ふやうになり、滿四歳の九月幼稚園に入園、翌九月に小學校に進み、ついで順次進級して四年生になるまで僅か四五年間、子供の學校生活を通じて得た印象やら見聞を、十年以前の記憶を辿りつゝ思ひ出すまゝに書かせて頂きます。

いづれの國でも同じでせうが、アメリカでは家庭の事情や境遇、宗教上の立場、又は都會といつた工合で、子供の教育やその選ぶ學校などを異にして、學校へ通はせず家庭教師をつけて兒童教育を完成させる者もあり、又子供をプライベートスクールとかパブリックスクールに入れて、その教育をすると云ふ風に、頗る自由な方法をとつてゐます。勿論義務教育年限と云ふものがあつて、或る事情で義務教育を修了せぬうちに勤めなどに出ると、夜間學校でその補修を强要されることになつてゐます。

○

さてさうしたアメリカに在つて、私の場合はどうであつたかと申しますと、ほんの七年許りの滯米生活を、紐育から約二十哩離れた小都市に送つて、近所に住む米國人達の助言や指導の下に、彼等のやることに追隨して見ることにし、子供はパブリックスクールに入れることに致しました。此の町にもプライベードスクールも勿論ありましたが、普通の家庭は大體パブリックスクールに子弟を通はせ、殊に私共の近所にあつた學校は、家庭の甚しく見劣りのするものがなかつたため、私共には格好のものでありました。私共の居を構へた町は紐育市からハドソン河を渡つて、汽車で三四十分、舊教徒の多い靜かな田園都市でありました。此處では日本人は割合に高く見て呉れて、此處に滯在七年の間、一度も侮蔑らし

い目も見ず、かなり楽しく暮す事が出來ました。しかし言葉の點や、人種感もありますので、正直に申してどうしても自分で卑屈になるのでした。子供にしても、控へ目な遠慮深い子になるのを、どうする事も出來ないのでした。

紐育市に居る日本人は、大部分市中の高層建築のアパートに住み、子供は殆どプライベートスクールに入れて特別な教育をしてゐられる者が多うございました。

アメリカではアパートに住む場合、子供は少くとも一日の中七八時間外氣の中で過さねば健康を保つ事が出來ぬと言はれ、實際都會に住むアメリカの母親達は、子供が一人で外で遊べるやうになるまで、その子供を公園に連れて行くといふ事が一日中での大仕事なのです。よく寫眞などで乳母車を連ねて側で母親達が編物などしてゐる樣を御覽になつた事があると思ひます。私共は子供をアメリカにゐる間は、出來るだけ一般のアメリカ人の子供達と同じやうに育てたいと存じ、生活もアメリカ人の中にとけ込んだ生活をしたいと云ふ願ひから、この郊外に一軒建の家に住む事になりました。

生後一年半で渡米した長男は、まだ殆ど日本語らしいものを話しませんでしたので、却つて英語で初めから話をしたと言ふ方が當つてゐる位でした。それで言葉の點では實に樂々と、アメリカの子供達と少しも變りなく覺えて行きました。日本人と云ふ珍らしさも手傳つて、子供は直に友達も澤山出來、滿三歳頃には教會の日曜學校に近所の子供達と通ひ初めるやうになりました。この日曜學校が家庭外の幼兒の教育場所で、可愛いゝ歌を覺えたり、お話を聞いたりして、幼兒の心に神の教へを植付けて行くと共に、人格の陶冶への小さい芽生えをつくり出してゆくものと思ひます。

○

普通滿五歳の九月に幼稚園に入るやうでしたが、私の子供は發育も非常によく、アメリカ人の子供の中に入つても却つて大きい位でしたので、殊に先生に御願ひして滿四歳の九月に、近所にある幼稚園に入園致させました。私共勤人は何時歸國の命に接するやも知れず、出來るだけ早く出來るだけ長く、アメリカの學校生活を味はせ度いと思ひ、初めは少々無理かとも思ひましたが、後には案外案ずる程の事もなかつたやうでした。

學校は幼稚園から小學校五年生まで、各一組づつの極小な學校でしたから、教室も各々六室の他に、特別教室のやうなもの二つ程、先生は全部女の先生で各組には一人づつ、他に畫と音樂の先生がお一人づつおいでになりました。校長先生は相當の年輩の方でしたが、他は皆若い方々で、その内お一人だけ既婚者、他は全部獨身の方でした。當時その町には、日本人は私共の一家族住むのみ、この學校も開校以來日本人を入學させたのは初めてと言ふわけで、いはゞこの學校の名物のやうなものでした。私は家の設備のよいためと、生活が簡易なため、充分時間にゆとりもあり、一人の子供をアメリカで育てるなどゝいふ、極めて變つた又得難い經驗を出來るだけ生かして行き度いと存じ、先生に時折學校の參觀をさせて

頂くやうお願ひ致しました。先生も喜んで之を迎へて下さいましたので、大抵週に一度は參觀に參りました。幼稚園は朝八時頃から十二時まで、上の組になりますと、午後の授業もありましたが、十二時より一時まではお休みで、その間に家に晝食をとりに歸ります。特に遠い所から通ふ者、或は母親が外出して晝食に家に居ない場合は、お辨當を持參して學校で頂きますが、普通は全部家に歸つて食事をする事になつてゐました。中學になりますとカフェーテリヤ式のものが設けられ食堂が有りました。家毎に自動車がありますので、朝も歸りも、この晝食の送り迎へも、母親が運轉して自動車でなされて居りました。大都市や雜沓の場所にある學校では、バスを出して學童の送り迎へをして居りました。

教室には教壇と言ふものがなく、生徒のものよりやゝ大きな机が前の方に備へ付けられてゐるだけでした。教へて頂く事は、日本の幼稚園とほゞ大同小異、たゞ折紙などゝ言ふ器用な事に出來難いらしく、餘り發達して居らず、色紙を切り拔いて張り附ける程度の事が多うございました。時折私が昔々自分の子供の頃覺えた折紙をして持たせますと、非常に珍らしがつて居りました。畫を書く時に面白く思ひました事は、アメリカの子供はインディアンごつことカーボーイごつこが大好きなのですが、畫を書くにしても大多數の男の子はこの中の一つを描くのです。そして自分の書きたい畫のポーズ、弓を引く姿、鐵砲を打つ姿、走つてゐる所など、子供からお願ひする樣々の姿を、先生が腕をまげ足をあげて見せてゐます。或場合には子供の一人を前に出してそのポーズをさせる。この樣にして、その姿から子供は子供なりの感覺でさらへて描いて居りました。色なども一々何色にぬるべきか相談しながらぬると云ふ風にして居られました。

子供達は十時になりますと、牛乳を一合づゝのみます。牛乳屋から學校へ子供の數だけ毎朝屆けられ、瓶の紙ぶたの一部に穴が明くやうになつてゐるので、そこへストローをさし込んで飲むやうにして居りました。或る時はチョコレートの入つてゐる時もありましたし、牛乳やからのサービスとしてビスケットのついてゐる時もありました。この費用は一ケ月分づつ各自先生のもとまで集めておくのですが、殊に貧しくてこの代金に差支へる者は、後に述べますP・T・A・で出費致します。

○

初めはたゞ幼稚園を見せて頂きに參つてゐたに過ぎませんでしたが、その内にP・T・A・といふものゝある事、又その活躍が如何に目覺しいものか、又學校教育に對するアメリカの母親の心構へといふものが少しづゝわかつて參りました。ついで子供も一年二年と進級するにつれて、親しい友達も出來、日本人一人といふ好奇的感じも手傳つて、遂に私はP・T・A・の社交部委員の一人に選ばれるやうになりました。日本人は兎角日本人同志のみの交際をする紐育方面では、この公立の學校のP・T・A・の委員に日本人が選ばれると云ふ事は非常に珍らしい事でしたから、こんな經驗をお

持ちの方は少いやうでした。P・T・A・は日本の父兄會とは凡そ違ふものゝやうでした。この學校のP・T・A・では會長には母親が選ばれ、副會長を校長先生がして居られる他は、會計から計畫から各部の委員長は凡て母親側で占めて居りました。月に一回集會があり、この報せだけは級々の先生から子供達にお報せがありました。開會初めにP・T・A・の歌を高らかに合唱、次いでP・T・A・誓ひの言葉を唱和し、後その月の仕事の報告、次の月の計畫會計報告など、それ〴〵の委員長からあり、次に先生方から學校内の狀況兒童の健康狀態などの報告があり、その時々に起る學校教育問題について學校側や母親側の意見の交換や討論なども行はれました。

此のP・T・A・は會合の會費と云ふものをとり立てず、寄附と勞力の奉仕とでまかなつて居りました。大抵の經費は各々の職業や身分に應じて支辯出來る程度に止め、決して無理な負擔は掛からなく、特別に費用を作らねばならぬ時はその資金の捻出のため、會員が特別に働いて作つて行く。それでもまだ不足の場合は、寄附を仰ぐ。その時は「これ〴〵のためにこれだけの費用が入用です、どなたか出して頂けますか」と會長がはかりますと、直に「私がそれはお手傳ひします」と申出る人が有ります。一同拍手してこれに敬意を表しますが、それだけであの人はお金持だから當然だとか、ものずきだとか言つた批評がましい事は全くなく、又あの人が出したから自分も出さねば惡からうかなどゝ氣をまはす者もありません。お互に實にさつぱりして又餘力のある者は少しでも公共の事に出費して力をつくす事を喜ぶといふ國でした。この費用を作るために私も古新聞紙を各家庭から貰ひ歩いて、これを商賣人に賣り歩いたことも有りました。又或る時は、一品料理を一會員の家へ持ち寄つて、これをP・T・A・の母親達に食べて貰ひ、共に食事をする樂しさを味ひながら、この食事代をP・T・A・の費用に當てたことも有りました。

集會の終りには一同卓子をかこんで、茶菓を頂き乍ら、いろ〴〵の話に花が咲きました。コーヒーに手製のお菓子。コーヒーは委員達が代る〴〵持ちよりましたし、お菓子は會員が十人程づゝ交代で持ちよりました。このお菓子も必らず手製のものが持ち寄られ、止むを得ず買求めたものを出す場合は恥かしさうに出したものでした。

ではP・T・A・にどんな仕事をしてゐたでせうか。學校の教育以外の事はすべてP・T・A・の手でなされてゐたやうでした。教室は自分々々の子供の子供部屋と同じ氣持ちで見守られ、季節の變り目には新しいカーテンが子供達の喜びさうな色合や柄のもので掛け代へられました。机がこはれ、ガラスが破れた、みんなP・T・A・の會員内でその職に有る人が喜んでなほして居りました。この學校は公立のものでしたから、子供達の家屋の中には生活の餘り豐でないものも少しは居りました。榮養の點で充分に出來ない子供には、學校で十時に頂く牛乳をP・T・A・から支給され、衣類など

も會員同志古いものも役立てるやうにしてゐました。こんな場合この慈善を受ける者も少しも卑屈にならず、親切を心から喜んで受ける心構は、日本人の私にはどうしても眞似られさうもない事に思へました。

P・T・A・は本部がワシントンにあり、月一回雜誌P・T・A・を發行し、時折ラヂオにP・T・A・の講座がありました。豫め議題を全國に知らせて、各地方毎にP・T・A・を參集して、ラヂオを通じて講演なり討論なりを一緒に聞くのです。この時には私共のP・T・A・は近くの會員の家に集り、一緒に聞いたラヂオを通じてこの問題について仲仲眞劍に活發な討論をやり合つて居ました。議題は兒童心理か子供のしつけを生理、衞生、性教育と云ふやうなものが取り上げられて居りました。時折は本部からの要求で兒童の嗜好健康狀態に關する刷り物が廻つて來てゐて、データを各地のP・T・A・に蒐集統計的に兒童教育狀態を觀察すると云ふ事もありました。私共の學校でも時折は專門家を招いて講演を聞いたり、母も子も共にピクニックに行つたりして、母親の教養を高めたり會員相互の親睦をはかつたり致しました。

何しろ十年の昔になりますので忘れた事、思ひ違ひをしてゐる事も多々あらうかと存じます。その上言葉も不充分で充分に了解出來ぬ點も多く誠に殘念に存じます。このP・T・A・を通じて一番うらやましく思つた事は母親達が皆實に熱心に學校教育に盡し、忌憚のない批評なり意見なりを開陳して行く。それにP・T・A・の活躍は種々めざましい働きをして居りますのに、學校の教育上少しの弊害も伴なはない點であります。アメリカと言ふ國は誠にピンからキリまである國ながら、よく身分相應の暮しを極めて樂しくやつて行ける、又他人の自由をよく尊重する眞の自由の國。私共のやうに異國の者が住みましても、他に迷惑をかけぬ限り、如何に日本風を發揮しても決して笑はれる事なく、理解ある態度で受入れる住みよい所がございました。又自分の子への愛を他の子供達へも及ぼして愛する心の强さは、私共日本人には遠く及ばぬ美しさ。これがP・T・A・を大きく美しく發展させたのだと存じます。

○

其間子供は二年より三年四年と順次進級して行く。進級の度に教科書は變るのですが、教科書は全部學校から貸與され、而かもその教科書には前使用者の名を記入して行く。使用に堪へる限り何人もの兒童が使つて行くやうになつて居りました。

かうして子供が四年生になりました十二月歸國することになり退學の已むなくなりました。最後に先生にお別れに參りますと、一人の委員が歸りに一寸下の部屋に來て呉れと申しますので、何心なく入つて見ますと、大勢その部屋に集つてゐたP・T・A・の會員が一度にドット歡聲を上げるのです。何事かと思ひましたら、私のための送別會をひそかに計畫し私を喜ばせたり驚かせたりして呉れたのでした。誰一

人知る人もない異郷で、こんなに親しまれ又泣いて別れをおしんで呉れるのに對し、本當に嬉しくて、長年の友情を感謝の辭を述べてゐる裡に眼頭が熱くなり涙を禁じ得なかつたのでした。その時の記念に贈られた忘れな草のブローチは、今なほ數々の思出の中に彼のアメリカの母親達の顏々をうかび上らせます。丁度今年六歳になる長女が女高師附屬の幼稚園にこの春からお願ひして、毎日の送り迎へに追はれながら、今度は日本の幼稚園で氣兼なしに、いはゞ内輪同志の中でのび〳〵と保育していただける反面、敗戰後混沌たる世相を眺めつゝ、どんな風に子供を育てゝ行かねばならぬか、只今の母親私共に課せられた重大使命を痛感致します。學校と家庭、先生方と母親達としつかり結び付いて、今育ちつゝある兒童の教育に力を合せて、新らしい而して立派な日本人を造り上げるといふ事を心から願つて居ります。

アメリカの幼稚園の古い思ひ出

倉橋生

遠藤夫人にお願ひした此の興味深い原稿を讀みながら、アメリカの幼稚園の見學の思ひ出が、あり〳〵と目の前によみがへつて來た。それは古いことだし、遠藤夫人のやうに、一つの幼稚園に親としてしつくりと結びついたのでもなし、こんないき〳〵したお話にはならないが、わたしの研究にとつて有益だつたことは、數知れない。大學をシカゴとコロンビヤに選んだ關係で、それらの大學にある幼稚園は勿論長くはしく見學させて貰つたし、此の二つはアメリカの保育界を代表するものといつてよかろうが、その他、旅行する度びに、その土地々々の幼稚園とナーセリー・スクールと託兒所とは、必ず訪ねた。その中でも、特に感心したドーナーグローブの幼稚園のことは、嘗て本誌上にも書き、舊著「幼稚園雜草」の中にも再録して置いた。ヨーロッパの方でも、ロンドンのマクミラン女史のナーセリー、スクール、ベルリンのペスタロッチ・フレーベル・ハウス、ゼネバのクラパレード教授の關係してゐる幼稚園など、それ〳〵多くの學ぶところがあつたが、印象的に忘れられないといへば、コロンビア大學の幼稚園で、アメリカの幼兒達の中で仲よく遊んでゐた、たつた一人の日本の女の子だ。わたしは、遠藤夫人の坊ちやんのことを原稿で讀みながら、あの嬢ちやんのことを思ひ出した。わたしが英語で話かけたら、あざやかな英語でお返事をして呉れたことなども。今は立派な奥さんになられ、きつといゝお母さまになつてゐられるだらうが、若し、「アメリカの幼稚園で保育を受けた話」とでもいふものを書いて下さいと願つたら、どんな思ひ出をもつてゐられるものだらうかと、自分ひとりでほゝえましく思つてみたりした。

それはとにかく、遠藤夫人のこのお話からは、澤山のことを學びたい。殊に親と先生の會のことなど、わたしも羨ましいと思つた。その後も、書物や報告では研究してゐるが、その實際の一員としてのお話を讀んで、新たに興味が深い。東京女高師の幼稚園でも、「親と先生の會」をつくつてゐるが、この問題はいづれくはしく書きたいと思つてゐる。